

よ う こ そ

第 36 号

浄土真宗本願寺派

円光寺

〒870-0108

大分市三佐3-15-18

TEL097-527-6916

FAX097-527-6949



新院さんの
お取り次ぎ



(上右)常例法座のようす
お聴聞されるいつもの
お同行の皆さん

(上左)ご法話される大智新院さん

(左上)今回は2区と薬師堂の
皆さんが手伝いして
くださいました

(左下)お掃除の後一緒に
お茶をいただきます
おいしい差し入れも
楽しみです

(2月16日)



お当番さん、ありがとうございます。

円光寺では宗祖親鸞聖人の御命日の十六日に常例法座を開いています。本堂新築以来四十年続くご縁で、当初は仏教婦人会の例会として始まりました。晃照住職(当時は新院)が得度し寺に帰って間もなくご法話お取り次ぎをさせていただくようになりました。今は大智新院がおつとめしていただきます。ご法話の機会をいただき勉強になります。

朝十時から一時間半のご法座です。その前九時には婦人会の当番地区の会員さんが来て清掃奉仕のお手伝いをしてくださいます。三佐地区を四班に分けて毎月お寺の本堂や境内をきれいにしてお参りの皆さんを気持ちよくお迎えます。

今は会社勤めの方も多く、お家の用事もあるなかで、当番の皆さんは色々大変だとは思いますが、本当に有難いことです。ご門徒皆さん、私たちのお寺です。年々顔ぶれは変わっていきませんが、代々受け伝えられるお念仏の確かさを有難く思います。お寺を思う気持ちいっぱい私にできることをさせていただきます。

浄土真宗のお寺は念仏聞法の道場です。ご門徒有縁の皆さんがお参りされ南無阿彌陀仏のおみのりを聞かせていただくことが肝要です。当番さんにはご法話を聴聞させていただき尊いご縁でもあります。ご法座途中のお茶出しお接待、後片付けなどのご加勢もあわせて、お当番さん本当にありがとうございます。

なお毎月一日は円成会、第二日曜日は仏教壮年会の皆さんが清掃奉仕のお手伝いをしてくださいます。おかげさまで円光寺はいつもきれいです。光あふれて、いのち輝く、みんなのお寺、円光寺に、皆さんのお参りを心からお待ちしています。

仏事なんでも相談室に

ようこそいらつしやい!!

二月から第二・第四水曜日の午後(二時〜四時)あんのん館で「仏事なんでも相談室」を開いています。

仏事のことこれまでにもお寺に相談にみえたり、お家にお参りする際に相談されたりということがあります。お仏壇のお飾りのことや葬式法事について一般的な相談が主でしたが、最近はお葬式をどうするのか、お仏壇やお墓をこれから誰が守りするのかといった個別的具体的な相談が多くなりました。

以前は三世代四世代の家族同居が当たり前で、家を継ぐということは、家業を継ぎ、家屋を継いで住居(家を守り)、その家のお仏壇を守り、近くにある先祖代々のお墓を守るといふことでした。ところが今は子どもが故郷の家を離れて遠方に就職、結婚して家を建て親とは別に生活する核家族が一般的になりました。お仏壇のある故郷の家は親が守り、高齢の夫婦二人暮らしや一人暮らしのお家が多くなりました。

退職し老後の生活設計で大き

なお家から町中のマンションに引っ越されるケースも増えてきます。その時お仏壇はどうなるのか。大きなお仏壇をそのままもつていけないという問題も出てきます。

何よりもこれから誰がお仏壇やお墓を守りしてくれるのか。いつまでも先延ばしできない問題が迫ってまいります。

顔と顔を合わせて

電話での相談があります。一般的なことでしたらすぐお答えすることもできますが、お家お家の事情もさまざまで状況を理解できないこともあり、またお寺お寺で対応が異なることもあって、電話の向こうとこちらで行き違いになることがあって嫌な思いをすることがあります。

またネットを見たり、書籍を読んで参考にする人も多いと思います。直ぐ必要な情報が入りやすい情報ですが、自分に都合のよい情報であつても本来の仏事の意味からふさわしくないものもあり、仏事のことはどうぞ



毎月1回大谷光真前門さまの著書を輪読していただきます。お茶もあつて(2月23日、あんのん館)

あけぼのすぎの会

お寺に直接お尋ねしてください。愚痴も聞きます。いつでもご相談に応じますが、このたびは時間を決めてあんのん館の御仏前でご院家さんお待ちしています。顔と顔を合わせ膝を交えてじっくりお話を聞かせていただきます。仏さまの前ですから安心して何でもお話ください。愚痴もいいです。「話を聞いてもらって、胸のつかえが下りました」「お話を聞いて、安心しました」といつても皆さんようこそいらつしやい!

世々生々

新聞に「低価格で上質な家族葬をご提案」と葬儀社の広告があつた。形だけのお金がかかる葬儀のあり方への厳しい市民視線が見てとれる◆今はネットでお葬式ができるという。葬儀業者やお坊さん、葬儀に関する全てを手配してくれ安心の定額料金という触れ込みだ◆葬儀にはわからないことが多いというのが世間一般の認識だろう。そもそも葬儀とは何か。その意味する大事なことが忘れられて、葬式無用論まで出てくる昨今である◆葬式仏教と言われるように、葬式といえはお寺、お寺といえはお坊さん、お坊さんといえはお経、お経をあげてもらつて故人の成仏を願うということ、葬式はお寺の専売特許のようになっている◆ところが葬式からお寺を排除するような動きである。門徒(檀家)とお寺の関係が変わりつつある。生まれながらに入籍した家が○寺という関係だ◆大切な人と死別する悲しみの縁でお寺との関係が始まる方が多い。仏さまのみ教えに出遇う大きな縁だ。仏法を聞いてくれよと、お寺を護り伝えてくれたお念仏の先人の願いのあり方を提案していきたい。

お朝事「法話」より

いのちの不思議



清松カツコさん満88才米寿の誕生日にお朝事同行の皆さんと一緒に祝いをしました (1月30日)

今日は私の伯父さん、円光寺第16代照哲住職とツネ坊守の第二子昭圓さんの祥月命日です。昭和23年の往生で、私は会ったことがありません。五人姉弟の長男で後に円光寺の住職を継ぐ立場にありました。戦後の混乱期で医療技術も十分でなく、28歳でした。寺内門徒中大きな悲しみのご縁になりました。そして三男の父昭然がお寺に帰って来て住職を継ぐことになりました。そして今ここに私がいるのです。いのちの不思議を思います。わがいのちの物語です。私の物語ですが、私がつくる物語ではなく、仏さまのご縁をいただく物語だといいただけます。

私たちは人間としてこの世に生まれそして命を終えていきます。人生という物語です。ところが死んだらお終いではなくて、昭圓さんのことというとうと、68年前に人の命は終えましたが、南無阿弥陀仏のおはたらき念仏一つで阿弥陀さまのお浄土に往生させていただき、さとのり仏さまと成って、この迷いの世に還って来ていつでもどこでも私たちを見守りご一緒して、「必ず救うまかせよ」という阿弥陀さまの撰取不捨のおはたらきのお手伝いをしてくださっていると聞かせていただきます。先に往かれた方は今は仏さまと成って私たちと共に生きてくださっているのです。このいのちはみんな仏さまのご縁につながっているいのちです。仏さまとは、ご本尊の阿弥陀如来さまですが、お釈迦さまであり、親鸞聖人、蓮如上人、そして私たちの先祖有縁の仏さま方です。私たちが大きないのちのつながりのなかに生かされてこの人生をお念仏申し安心して生きていくのです。そしてこの私もいつか必ずこの命を終えていかねばなりません。歎異抄に「名残惜しく思えども娑婆の縁つきて力なくして終わるときに彼の土へは参るべきなり」とあります。愛する人

との別れはこれほど悲しいことはありませんが、思い通りになりません。オリンピック選手も、会社の社長さんも、政治家さんも、お医者さんも、お坊さんもどんな人も力なくして終わります。限りある人の命の完結です。ただ命終の時「彼の土へは参るべきなり」と、お浄土にお参りさせていただけるといいます。私がお参りしよう、お参りしたいと願って往く浄土ではなく、願う力も一つもない私です。で見取って阿弥陀さまがそのまま連れて往ってくださいのです。死んだらお終いではない、仏さまのいのちとなつて無量寿です。限りない無量のいのちの物語はずっと続くのです。大きないのちの物語のなかに私は今ここに生きています。仏に成るいのちを生きています。

ご案内

◆春彼岸会

3月19日(土) 11:00~15:00
同 19:30~21:00
3月20日(日) 13:30~15:00

◆花まつりの会

4月 3日(日) 10:00~12:00
(白象パレード、新1年生を祝う会)

◆宗祖降誕会

5月22日(日) 10:00~15:00
(初参式、バザー、もちまき)

◆常例法座

6月16日(木) 10:00~11:30

“月に一度は
お寺参りしましょう”

※詳しくは『寺通信』でご確認ください。



仏教壮年会総会に23人の朋友が結集しました。お寺を思い支えてくださるお念仏の仲間です (2月14日)

第二日曜日は仏壮の日

私もそしてあなたもです。みんなのちつながついていっしょです。何とも不思議ないのちのご縁をいただいて今日お朝事のお勤めのなかに昭圓さんのことを偲び御礼のお念仏を申させていただきます。(2月19日)

藤並照哲前々住職 五十回忌祥月命日法要



照哲16代住職

12月30日(水)に藤並照哲(浄勝院釋照哲)円光寺第16代住職の五十回忌法要(昭和41年往生、80歳)を寺内有縁の皆さんでお勤めしました。

照哲さんは明治19年に第15代照然住職とヨシエ坊守の長男に生まれました。佐藤ツネ(院内町大副)と結婚、戦前戦中戦後の貧しく大変な大正・昭和の時

遺影に思う

仏間に故人の写真をかけているお家が少なくなりました。何かいつも見られているみたいで仏間に入るのが恐いと言う方がいました。だからはずした？

代を、ツネ坊守と共に円光寺を護りぬいてくださいました。几帳面な性格でありました。顔を見たことがない一見寄りつき難い雰囲気でしたが、いつも明るく賑やかなツネさんと絶妙な夫婦関係であったと思います。

晩年隠居部屋で一緒に過ごすことがありましたが、火鉢を囲みキセルに煙草をつめておもしろうに一服していた姿を懐かしく思い出します。

仏事のご勤式作法に厳しく、紙一枚まで物を大切にして、お念仏のご法義の有難さを日々の生活のなかで一つ一つ教え伝えてくださった御恩に深く感謝申し上げます。

ご法事のご縁にお参りの方々が写真を見て故人を偲びます。「お父さんに似てきたね」と声がかかります。そして写真を見直します。そう言われればどこかに似ているような気がします。そして思います。いのちのつながり、いつも見守ってくれているんだなど。ありがとうございます。

◇下段の詩「ぼくの顔」を声に出して読んでみましょう



森宗崇御講師(玖珠光徳寺様)にご法話お取り次ぎいただきました(11月27日)



子ども報恩講で中学生スタッフ6人が人形劇「ももたろう」を公演してくれました(11月26日)



ご門徒皆さんにご懇念をおはこびいただきお内陣のお荘厳が整いました(11月25日)

親鸞聖人御正忌報恩講

ぼくの顔

目はお父さん 口はお父さん 耳はお母さん まゆげとまつげはお母さん 鼻はお父さん ぼくの顔には お父さんとお母さんがいる。だからぼくは大切なぼくなんだ。ぼくは、お父さんお母さんから たくさんのもをもらった。 ぼくのなかには なくなつたじいさまがいられる。 ばあさまもいられる。 ひいじいさまもいられる。 ひいばあさまもいられる。 家族そろって お正信偈をとなえると ぼくの胸のなかでみんなが ひとつになる。

あ と が き

東日本大震災から五年が経つ。あの時テレビで大津波が家屋を車を町のすべてを飲み込む様子をじつと観ていた。大自然の脅威と人為の無力さを思い知らされた。福島第一原発の事故は人の欲と驕りと愚かさを明かす。今も行方不明の家族や友人をさがす人がいる。古里の家に帰ることができない人がいる。町の復興は次第に形となりつつあるが、人ひとの苦悩はどうか。思いをもつてつながっていく。